

## 「ミロのヴィーナス」テスト問題

※著作権の都合上、本文を掲載することができませんので、教科書を見ながら設問に解答するようにしてください。

第二段落　したがって、僕にとっては、ミロのヴィーナスの……まさに、芸術というものの名において。

【二】本文について、設問に答えよ。

問一　傍線部①「そこには、失われた原形というものが」とあるが、「そこ」が指示する内容を十九字で抜き出して書け。

問二　傍線部②「それ以前の失われていない昔に感動することは、ほとんどできない」とあるが  
(1) それはなぜか。理由にあたる部分を本文から「…から」に接続するように二十六字で抜き出せ。

(2) 「それ以上の…できない」のはなぜか。次の文にあうように指定された字数で語を抜き出して書け。

・(A)「十四字」を失い、(B)「十七字」へと変化してしまうから。

問三　傍線部③「対象への愛と呼んでもいい感動が、どうして他の対象へさかのぼったりすることができるだろうか？」について、

(1) A「対象」とB「他の対象」とはそれぞれ何を指すか。各々十二字程度で書け。

(2) 「対象への…だろうか？」とあるが、それはなぜか。

問四　傍線部④「僕は一種の怒りをもって、その真の原形を否認したいと思うだろう。まさに、芸術というものの名において」について、

(1) 筆者が考える「芸術」とはどのようなものか。

(2) 用いられている修辞法を答えよ。